

## プロジェクト研究Ⅰ 幼小接続

### 幼小接続期の学びにおける 主体性を発揮するための指導の在り方 —主体的に自己を発揮した学びの実現に向けて—

田原本町立田原本小学校	教諭	南	昌	伸
田原本町立田原本幼稚園	教諭	川	村	梨
	指導主事	中	井	真
	指導主事	新	田	晶

# 幼小接続期の学びにおける 主体性を発揮するための指導の在り方 —主体的に自己を発揮した学びの実現に向けて—

田原本町立田原本小学校 教諭 南 昌 伸

Minami masanobu

田原本町立田原本幼稚園 教諭 川 村 梨 紗

Kawamura risa

指導主事 中 井 真 美

Nakai mami

指導主事 新 田 晶 子

Nitta akiko

## 要 旨

平成29年3月に学習指導要領等が改訂された。幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び保育所保育指針と小学校学習指導要領では、幼小の円滑な接続を図ることが求められ、小学校学習指導要領では、特に小学校入学当初においては、「幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことを生かして指導の工夫や指導計画の作成を行うこと」とされている。

本研究では、接続期における心理的・環境的な段差を分析し、幼児期に培われた主体的に活動する態度を小学校教育の中で発揮する指導の工夫について探った。

なお、本研究は、平成29・30年度の2年間を通じて実施したものであるため、研究目的や仮説等は、平成29年度と同じものである。

キーワード： 幼小接続、段差、主体性、教員の関わり、足場かけ、省察促し

## 1 はじめに

平成29年3月に学習指導要領等が改訂された。幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び保育所保育指針と小学校学習指導要領の中に、幼稚園教育等と小学校教育との円滑な接続を図ることが求められている。小学校学習指導要領においては、「特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと」とされている。

また、小学校学習指導要領と幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の中に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が共通に示された。さらに、小学校学習指導要領には、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することによ

り、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること」とされている。平成29年3月に当教育研究所が実施した、「幼児期から小学校への接続期実態調査」において、「小学校生活にスムーズに入ることができたか」の問いに対して、小学校長の26.8%及び1学年担任教員の26.6%が「スムーズでなかった」と回答しているのに対し、幼稚園等の5歳児担任は「スムーズでなかった」との回答が9.0%と低く、担任間の差は17.6ポイントであった(図1)。また、幼稚園等の園・所長は「スムーズではなかった」9.5%に加え、「分からない」5.7%との回答が多く、その理由としては、「小学校への適応の状況を知るような見方をしていない」が37.5%と最も多く、卒園後の様子が十分に共有されていないことが分かる(図2)。

また、「小学校生活にスムーズに入るために、どのような取組が必要か」と問い、必要だと思うものを3つ選択して回答を求めた。この問いに対して、小学校長、園・所長及び担任のすべてで「身辺自立・基本的生活習慣」が最も多い。さらに、「幼児期の経験を小学校生活に生かすこと」「主体的に考えたり、課題を自分のものとして捉えること」に対しては、園・所5歳児担任が、それぞれ27.1%と39.2%必要としているのに対し、第1学年担任はともに4.7%と必要性を感じている割合が低い(図3)。このことから、幼児期の教育で大切にしていることを小学校教員と十分に共有できていないと考えられる。

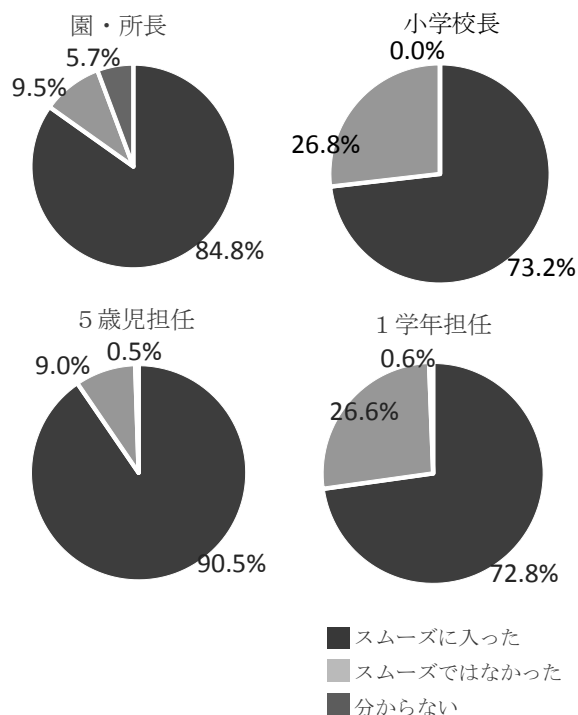


図1 小学校生活への適応状況

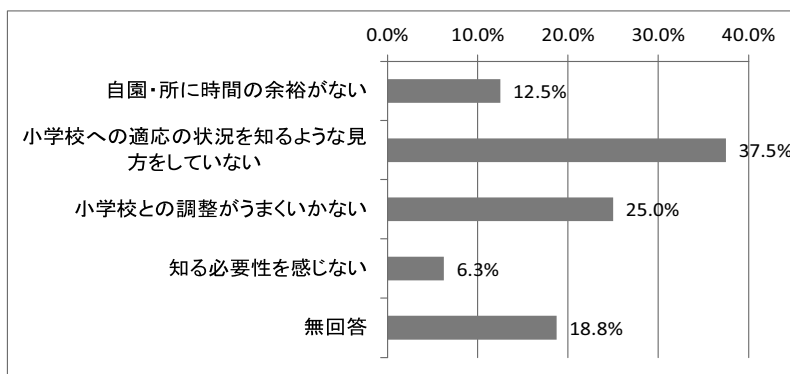


図2 分からないと答えた理由(園・所長)

そこで、幼児期に育まれた力を小学校で生かすために、主体性を切り口にプロジェクト研究をすることとした。具体的には、教育実践の中から、主体性と主体的な活動の中で表現する力を育むための教員の指導や援助の仕方を明らかにする。なお、追跡調査を実施するため本研究は2年

間のプロジェクト研究とした。

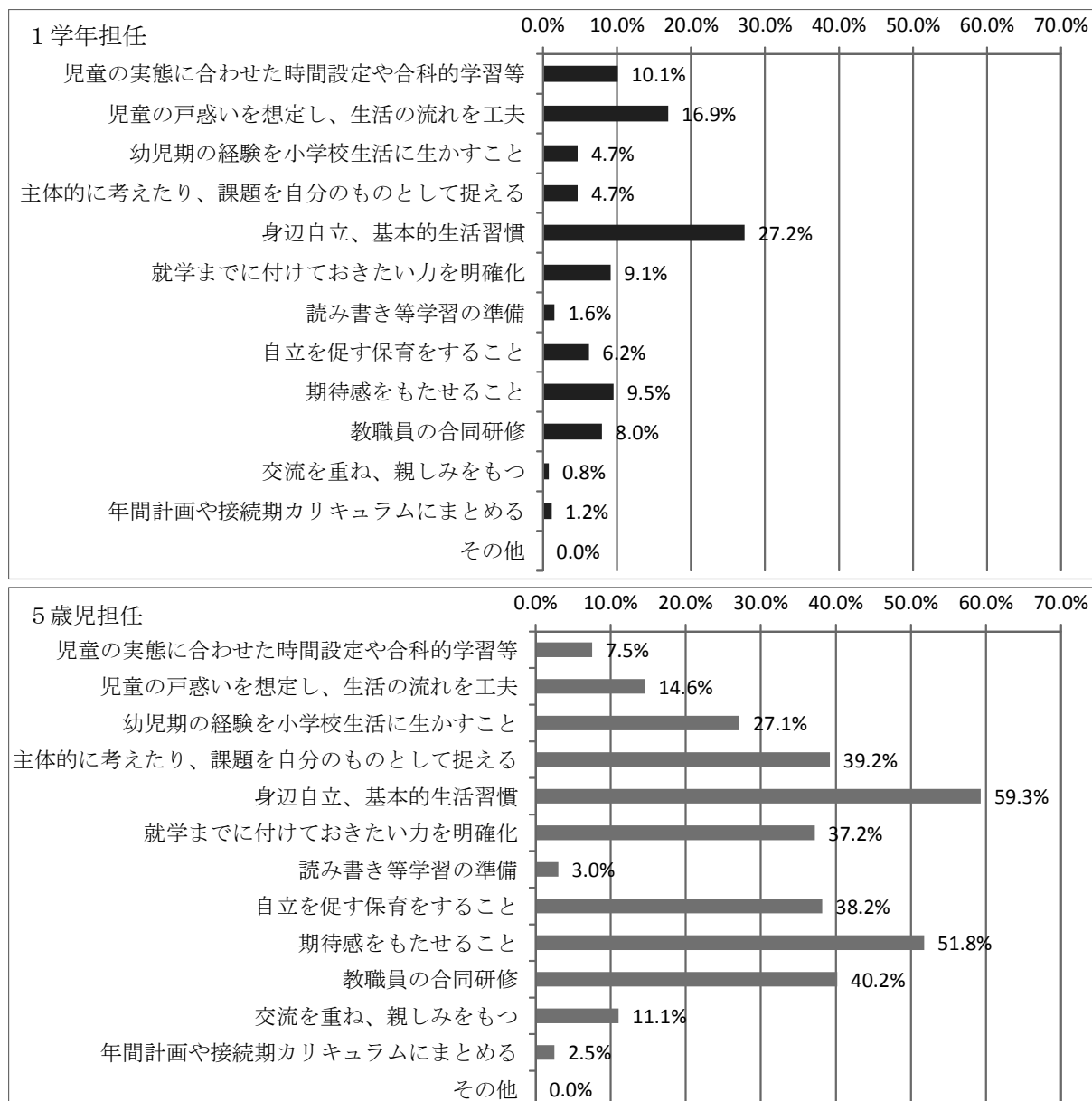


図3 小学校生活にスムーズに入るために必要な取組

## 2 研究目的

奈良県立教育研究所では、幼児期の教育と小学校教育の接続について、平成20年度から平成22年度まで「幼稚園・保育所と小学校連携促進事業」として、幼小連携を進めていくために、教育課程に位置付けた指導計画の立案、交流活動の進め方、指導者同士の交流、家庭と連携した円滑な接続についてまとめた。平成23年度には、幼児期から小学校への接続期実態調査事業で、県内すべての小学校・幼稚園・保育所の管理職等を対象とした実態調査を行った。平成24年度に「幼児期から小学校への接続期調査・研究事業」で、接続期の実践をまとめた。

このことにより、各地域での幼小の接続に関する交流や情報交換はある程度進んだと言える。しかし、平成26年度幼児教育実態調査（文部科学省初等中等教育局幼児教育課）においては、「年数回の授業、行事、研究会などの交流があるが、接続を見通した教育課程の編成・実施は行われ

ていない」(ステップ2)と回答した市町村が58.3%であり、全国平均の60.4%よりも低い。また、「授業、行事、研究会などの交流が充実し、接続を見通した教育課程の編成・実施が行われている」(ステップ3)、「接続を見通して編成・実施された教育課程について、実施結果を踏まえ、さらによいものとなるよう検討が行われている」(ステップ4)については、全国ではステップ3、ステップ4合わせて21.8%であるのに対し、奈良県ではステップ4の市町村は0%で、ステップ3と回答した市町村は19.4%にとどまっております、接続を見通した教育課程の編成・実施には至っていない(図4)。

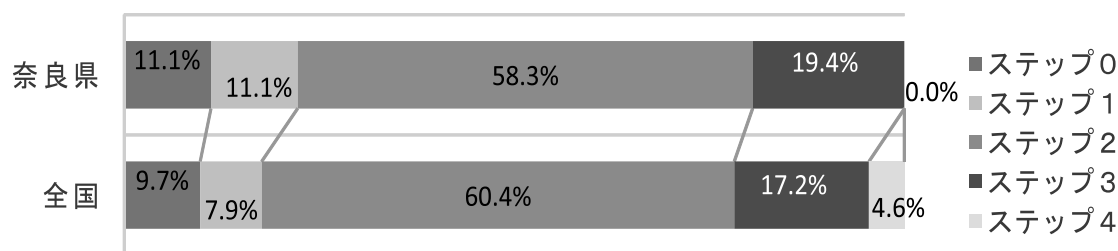


図4 市町村ごとの幼小接続の状況

本県では、平成28年度から、「幼児期の教育と小学校教育の育ちをつなぐ幼小接続事業」として、幼稚園等の教職員と小学校の教員が協働し、交流や研修を深め、接続期のカリキュラム作成に取り組んでいる。その事業の中でも、幼小接続の取組を具体的に始めようとする、初めの段階で、幼小が互いの教育の様子を十分に理解していないことが分かる。そこで、幼小それぞれの教育の中に見られる子どもの姿を分析し、幼小の接続期にふさわしい主体性の芽生えの育成、表現力の育成に資する環境構成、教員の指導や援助の仕方を探ることとした。

### 3 先行・関連研究について

内田伸子、津金美智子(2014)「乳幼児期の論理的思考の発達に関する研究—自発的活動としての遊びを通して論理的思考力が育まれる—」

国立教育政策研究所(2017)「幼小接続期の育ち・学びと幼児教育の質に関する研究」<報告書>

「幼児教育の質向上に係る推進体制等の構築モデル調査研究」いわゆる「非認知的な能力」を育むための効果的な指導法に関する調査研究(2015)

藤崎宏子(2016)「幼児期の非認知的な能力の発達をとらえる研究—感性・表現の視点から」

### 4 研究の仮説

幼児期の教育と小学校教育の学びの在り方を幼小の教員が共有し、指導方法を工夫することにより、子どもの主体的な学びを促すことができ、接続期の環境的・心理的段差を乗り越える力につなげることができる。

### 5 研究方法

#### (1) 研究期間

平成29年4月～平成31年3月 2年間

#### (2) 研究対象

田原本町立田原本小学校 1年

田原本町立田原本幼稚園 5歳児

### (3) 研究計画

#### ア 1年目（平成29年度）

- ・授業・保育実践事例の収集
- ・主体性・表現力を育むための授業・保育に係る実践事例の分析

#### イ 2年目（平成30年度）

- ①幼児・児童の「主体性、表現・言葉」に係る調査の実施・分析
- ②質問紙調査の実施・分析
- ③主体性・表現力を育むための授業・保育に係る実践事例の分析
- ④接続期の主体性・表現力を育むための「期待される接続期の姿」の分析

## 6 研究内容（2年目）

平成29年度の研究において、幼児期の教育の中で主体性の発揮に導く時に多く用いられる、「足場かけ」や「省察促し」は、小学校の学習においても有効であり、子どもが既知の学習内容や経験をもとにした課題解決に導くことができた。

今年度の研究においては、昨年度の成果を基に、接続期における心理的・環境的段差を分析し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に照らして子どもの育ちを共有する「具体的な幼児・児童の姿」をまとめる。

### (1) 幼児・児童の「主体性、表現・言葉」に係る調査の実施・分析

平成29年度、本研究のスタートに当たり、接続期における子どもの実態について出し合った。子どもたちは幼稚園で2年又は3年の経験を経て、集団生活に慣れ、教員や友達と共に園環境の中で自信をもって生活しながら成長する。小学校入学は、そのような環境や生活の仕方が変化し、新しい教員や友達と人間関係を築く必要性が生じる場面である。小学校生活への期待と同時に不安を感じやすい。例えば、入学当初は「どうすればいいの」と尋ねたり、「これでいいんですか」と確認したりする児童が多い。また、困ったことがあるとき、周りに助けを求められずじっとしていたり、気付いてもらえるように何らかのサインを出したりする児童も多い。小学校入学という大きな環境の変化の中で、主体性の発揮と表現・言葉によるパフォーマンスが低下しがちであると言える。

そこで、平成29年4月の幼稚園5歳児のうち平成30年度に田原本小学校に就学した26名について追跡調査を実施した。対象の幼児、児童に対し、「主体性、表現・言葉」に係る実態を各担任が生活や遊び・学習の様子を観察し、4段階（4:できる、3:ある程度できる、2:あまりできない、1:できない）で記録した。実施時期は平成29年度年4回（4月、7月、10月、1月）、平成30年度3回（4月、7月、10月）とし、主体性及び表現・言葉についてそれぞれ以下の6項目（表1）を調査した。調査は、平成29年度は5歳児担任、平成30年度は1年担任がそれぞれ実施した。

表2がその結果である。月が進むにつれ、平均値が上がる傾向は、幼児、児童とも同様である。

幼小の接続時に当たる平成30年1月の調査結果と平成30年4月の結果を比較すると、12項目中「課題や活動に取り組もうとしている（チャレンジしている）」「自分から人に声をかけることができる」「友達同士で相談することができる」の3項目は、0.5以上の上昇であるのに対し、「見通しをもって計画的に活動している」「困ったことを自分で解決しようとしている」「自分の考

えや思いを言葉で表現することができる」「してほしいことを言葉で伝えることができる」「友達を思いやることができる」の5項目は低下している。

表1 幼児・児童の主体性、表現・言葉に係る調査項目

	内 容
主体性	活動に興味をもっている。
	課題や活動に取り組もうとしている。(チャレンジしている。)
	活動に夢中になっている。
	見通しをもって計画的に活動している。
	自分で考え、工夫して行動しようとしている。
	困ったことを自分で解決しようとしている。
表現・言葉	自分の考えや思いを言葉で表現することができる。
	してほしいことを言葉で伝えることができる。
	自分から人に声をかけることができる。
	相手の話を最後まで聞くことができる。
	友達同士で相談することができる。
	友達を思いやることができる。

表2 幼児・児童の主体性、表現・言葉に係る調査（追跡児平均値）

		H29				H30		
		4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月
主体性	活動に興味をもっている。	2.3	2.6	3.5	3.6	3.9	3.9	4.0
	課題や活動に取り組もうとしている。(チャレンジしている。)	1.7	2.2	3.0	3.2	3.8	3.9	3.9
	活動に夢中になっている。	2.4	2.6	3.3	3.3	3.6	3.6	3.7
	見通しをもって計画的に活動している。	1.7	1.8	2.1	2.6	2.4	2.7	2.8
	自分で考え、工夫して行動しようとしている。	2.0	2.2	2.5	2.8	2.8	2.8	2.8
	困ったことを自分で解決しようとしている。	1.8	2.2	2.4	2.8	2.7	2.7	2.7
表現・言葉	自分の考えや思いを言葉で表現することができる。	1.9	2.2	2.7	2.8	2.7	2.7	3.0
	してほしいことを言葉で伝えることができる。	2.1	2.4	3.0	3.0	2.9	2.9	3.3
	自分から人に声をかけることができる。	2.2	2.3	2.5	2.8	3.4	3.5	3.7
	相手の話を最後まで聞くことができる。	1.8	1.8	2.2	2.5	2.6	2.7	3.1
	友達同士で相談することができる。	1.7	1.7	1.9	2.3	3.1	3.2	3.3
	友達を思いやることができる。	2.0	2.1	2.7	3.3	2.7	2.8	3.0

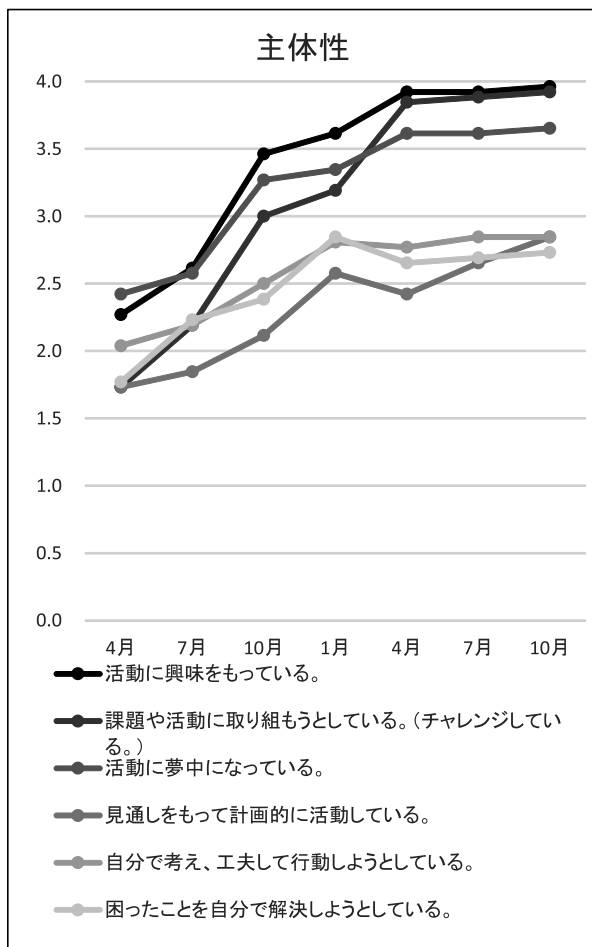


図5 幼児・児童の主体性、表現・言葉に係る調査 (主体性)

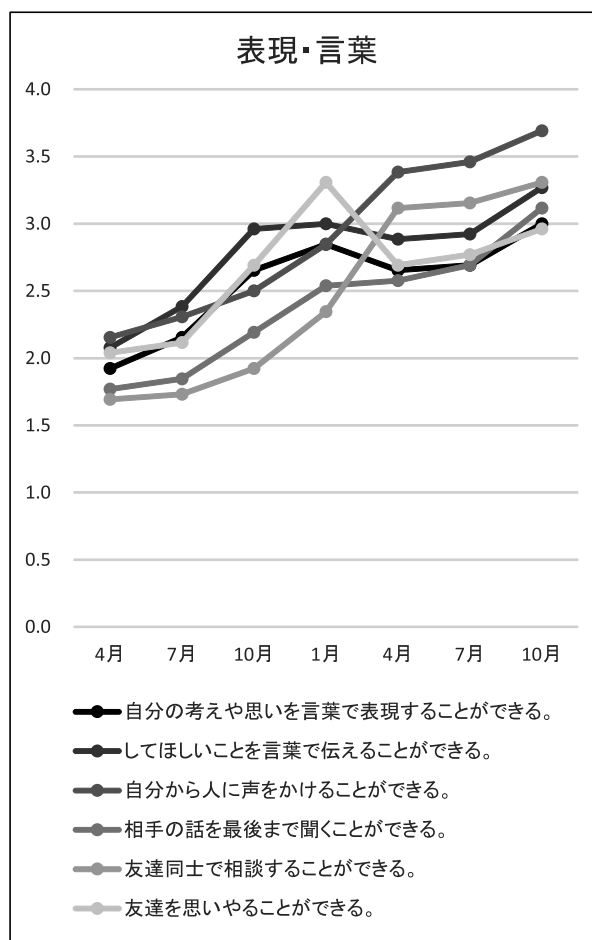


図6 幼児・児童の主体性、表現・言葉に係る調査 (表現・言葉)

接続期に低下が見られる6項目のうち、主体性に関わる3項目は、幼児期における伸びが小さく、平均3.0未満であったものである。小学校生活の始まりにおいて、環境の変化や生活の見通しがもてない時期であるため、発揮が困難となると考えられる項目である。表現・言葉に関わる項目では、考えや思い、してほしいことを伝えるもので低下の傾向が見られる。新しい友達や教員に出会い、関係を築くことが必要になる時期であることから一時的に低下することが考えられる。小学校入学という環境等の変化を受けた子どもには、それまで発揮していた力が十分に発揮できにくい状況が生じると考えられ、幼小接続期における、子どもの主体性及び表現・言葉の発揮においては、生活の仕方や友達関係が変化することに起因する(と思われる)「段差」による低下が見られる。

## (2) 質問紙調査の実施・分析

研究園・校の教職員を対象とした接続期に係る質問紙調査(図7、図8)を行った。以下、分析について自由記述式で行った。

- ・接続期に求められる子どもの姿
- ・幼小の接続期に必要なと思われる指導・援助
- ・主体性を発揮するために有効な指導・援助



平成30年度指定研究（プロジェクトⅠ幼小接続）  
「遊びから主体的な学びへつなぐ幼小接続の在り方」  
教職員対象質問紙調査

田原本小学校 南 昌伸  
田原本幼稚園 川村 梨紗

私たちは、幼稚園と小学校の間で子どもが感じている環境的、心理的段差や教育方法を分析し、主体的に学びに向かうために、子どもに育てたい力と教員の教育の在り方を研究することとしました。  
以下のアンケートに御協力をお願いします。

1 今年度の担当学年等を記入してください。

今年度の担当学年等

2 1年生又は5歳児の担当経験の有無を次の中から選んでください。

何度も担当している  
 幾度か担当した  
 ほとんど又は全く担当したことがない

3 接続期に求められる子どもの姿とはどのようなものだと考えますか。

4 幼小の接続期に必要なと思われる指導・援助はどのようなものだと考えますか。

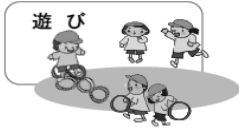
5 主体性を発揮するために有効な指導・援助の方法はどのようなものだと考えますか。

6 4、5の指導・援助を行ううえで、困難なことがあれば記入してください。


図7 質問紙1

◆「遊び」と「学び」の連想ワード  
「遊び」、「学び」のそれぞれの言葉から連想する言葉を書いてください。

遊び



学び



御協力ありがとうございました。  
月 日( )までに まで御提出ください。

図8 質問紙2

幼稚園においては、接続期に求められる姿として、「自ら取り組もうとする姿」「自分の思いを伝えたり、相手の思いを受け止めたりする姿」等、自己発揮できる姿を回答したすべての教員が挙げていることから、小学校入学後環境が変化しても、自分の力で段差を乗り越える力を重視していると言える。指導・援助としては、「周りの友達に目を向けたり意見を聞こうとしたりするように促す」「幼児が自らしたことを認める」「自分で考え、行動しようとする姿を大切にする」などの自己発揮を促す援助を8人中3人が挙げ、「小学校の一日の流れを知る機会をもち、小学校生活に期待をもたせる」「個々がもっている力を正しく理解し、個々に応じて対応する」などの自己発揮につながる安心感をもてる指導を8人中6人が挙げている。

一方、小学校では、接続期に求められる姿として、「興味・関心をもつこと」「豊かな感受性をもち、それを表現すること」等自己発揮の姿や「愛情に満たされた笑顔」「楽しみだと感じるものがあること」等の安心・安定につながる姿と同程度に、「集団の一員としての自覚をもつ」「45分の授業時間座っていることができる」「時間を守って行動する」など、自己抑制の姿を求める意見がある。指導・援助については、自己発揮や安心・安定を促すものとして、「成長していることに対して自信をもたせる」「遊びの中からの発見や意欲を大切にする」が挙げられる。自己抑制については、「ルールを数を限定し必ず守らせる」「生活の規則を教える」「細かくかみ砕いて伝える」などの集団生活の中で安心して過ごすためのものが最も多い。

このように、幼稚園と小学校で接続期に求める姿が異なることが分かる。幼児期には、これまでの経験を基に集団生活で自己発揮できる姿を求めるのに対し、小学校では、多くの幼稚園・保育園等から異なる経験をしてきていることを受け、集団として安心して過ごすための共通の規律等を身に付けられる姿を求めるといった、指導の方針に違いがあることが分かった。

### (3) 主体性・表現力を育むための授業・保育に係る実践事例の分析

昨年度の実践事例の分析の中で、主体性を育むためには、幼児期までに積み重ねてきた経験が小学校生活や学習活動の中で生かされ、新たな経験として積み重ねられることが重要であると分かっている。

今年度、幼稚園及び小学校における実践事例を分析し、主体性の発揮を促す教員の関わりについて昨年度の検証を行った。

(実践事例①小学校 第1学年1学期 道徳)  
「感謝」の大切さについて考える授業

- ・感謝を伝える「ありがとう」という言葉を考えるために、導入でうれしかったそれぞれの経験を振り返る。  
T:「うれしいことはありますか」「どうしてうれしいの」「どんなときにうれしくなるの」  
C:「誕生日」「プレゼントをもらえるから」「自転車でこけて助けてもらったとき」「石につまずいてこけたとき、どこかのお兄ちゃんが大丈夫と聞いてくれた」「先生がありがとうって言ってくれた」など
- ・教材の挿絵を見て考える。  
T:「どんな場面かな」「どんな気持ちだろう」「隣の友達とどんな気持ちでいるのかお話ししてみよう」  
C:「頑張って給食作ろうと思ってる」「早くけがが治ったらいいなと思ってる」「ボールが外に出なくてよかった」「いつもみんなが車にひかれないように見守ってくれている」「今日も見守りさん、いたよ」「みんなが大きく育つようにおいしい給食作っている」など

本時の授業において、児童が課題を自分のものとして捉え、主体的に考えられるように、導入で自分自身の経験を振り返るようにした。

幼児期の学びは自分が中心である。自分と友達や身近な人々との関わりの中で感じたことや考えたことを表現し、相手の考えに触れることで新たな考えを生み出したり、相手の気持ちを想像したりする。この授業の導入では、指導者が行った発問に続けて、「どうしてうれしいの」「どんなときにうれしくなるの」といった省察を促す補助的な発問を行ったことで、積極的な発言や友達の発言を参考にして考える児童の主体的な活動につながった。

また、教材の挿絵を見て、「登場人物が、どのような思いからそうしているのか」を問う中心的な発問では、「(ケガした子どもは) みんなが助けてくれて嬉しかった」「ボールが転がってるから取ってあげよう」などの発言があり、例示された状況の理解が困難な児童や、対象の人物以外の心情を考えるなど、発問の意図が伝わらない児童の姿が見られた。そこで、指導者が、児童に場面を説明させたり、対象の人物をはっきりさせてから「どんな気持ちかな」と発問したりしたことで、意見を焦点化することができた。また、友達同士で話し合うよう促したことで、考えが深まった児童が多かった。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿にもあるように、友達の気持ちに共感する、相手の立場に立って行動するようになる時期であるものの、友達ではなく、直接的なつながりのない相手の気持ちを「想像する」場面であったため、幼児期に第三者の気持ちを想像するという経験は少なかった児童にとって、本時の課題は難しかったと思われる。幼児期には、友達などの身近な人の直接的な言葉や行為から「相手の気持ちを知る」経験をしており、「相手の思いを想像する」ことは経験していない。単に「考える」と捉えるのではなく、何をどのように考えるのか、これまでの経験を生かし行うことができるのかを確認しておくことが大切である。

(実践事例②小学校 第1学年1学期 生活科)

色水を作って、紙の色染めをする学習活動

- ・知っていることを出し合う（園・所の経験も含めて）。

T：「水で遊ぶというと『泳ぐ』って考えるけど、泳ぐ以外で考えてみよう」

C：「水風船」「みずかけごっこ」「水鉄砲」「保育園でやってたじょうろみたいなおもちゃで遊ぶ」など

- ・意見の中から絞り込む。

T：「水で遊ぶものいっぱい出てきたけど、実際にできるものは何かなって考えていきたいんだけど、何ができそうかな」

C：「水鉄砲」

T：「水鉄砲はどこにあるの」

C：「ペットボトル」

T：「ペットボトルはどこにあるの」

C：「先生が持ってくる」

T：「今からここでできることを考えよう」

C：「色水」「あさがおで色水できるで」

T：「あさがおで色水できるの」

C：「うん、できるで」「ほかの花でもできるで」

- ・方法を考える、手順を確認する。

T：「今、色水やったことあるっていったけど、やったことある人はやり方覚えてる」

C：「ペットボトルに水入れて振ったらできる」

T：「でもペットボトルはないから、他に何がいるかな」

C：「カップ」「袋」

T：「じゃあ、みんなに任せるから、グループで考えてやってくれる」

経験を基に思考することは、児童にとって主体的な活動となることが明らかになった。前段での「これまでにしたことのある遊び」を出し合う活動では、前回の授業同様、経験を試したり工夫したりする姿が多く見られた。また、指導者の「みんなに任せる」という発言は、児童にとって大きなモチベーションとなった。生き生きと色水作りに取り組む姿が見られ、そこで試行錯誤しながら時間を忘れて活動していた。

担任は、色水を作ることをねらいとして提示したが、実際には紙の色染めを目的とした色水であったため、子どもの作ったものは濃さが薄かった。主体的な活動を促すとともに、その活動を通して学習のねらいを達成するためには、

- ・使えるモノの提示（知識、道具、環境、経験 等）
- ・ゴール設定（ねらいの共有）

などが重要である。

(実践事例③幼稚園 5歳児2学期 新聞紙ゲーム)

<ゲームの内容>

- ・各グループ（4人）に新聞紙1枚を配布する。
- ・新聞紙を切ったりちぎったりして、長くなるように繋げていく。
- ・使っているものは、ハサミ・セロハンテープのみ。
- ・1番長いグループの勝ち。

5分間の相談タイムを設けた後、ゲームを開始した。

《Aグループ》

今までの経験から、グループで何かをするときには役割分担が必要だということを感じていたため、新聞紙をちぎる人、手渡す人、セロハンテープを付ける人、繋げていく人に分かれることにした。それぞれに役割が決まっていたため、全員が連携して終了時間まで協力しながら新聞紙を繋げていくことができた。

《Bグループ》

新聞紙をハサミで4枚に分け、繋げる。しかし、それでは短いことに気付き、教員に新聞紙は細くしてもいいのかを聞きに来る。そこで、どのような形でも長ければいいことを伝えると、幅広の新聞紙の端を細く切り始める。切った新聞紙を端に繋げ、また幅の広い新聞紙の端を切って、と繰り返していく姿が見られた。このグループはそれぞれの幼児が個々に切って繋げることを繰り返していた。

《Cグループ》

まず、ハサミで切るのか手でちぎるのかでもめている姿が見られた。教員が、なぜハサミがいいのか、手でちぎった方がいいのかを聞くと、「綺麗に切れるからハサミがいい」という意見と「楽しいから手でちぎるのがいい」という意見が出された。そこで、再度今回の目的（長く繋げるにはどうすればいいか）を確認したところ、ハサミで切ることに決まった。また、それぞれが好きな方向に切ろうとする姿を見て、一人の幼児が「そんな切り方じゃダメやで。綺麗に半分に切らんとあかん。」と言った。その言葉に他児も納得し、半分に切り、丁寧にセロハンテープで繋げた。そこで、「できた。」と思っている幼児もいたので、周りのグループを見てみるように伝えた。「Bグループめっちゃ長い。また半分に切って繋げよう。」と、今度は縦半分に切って繋げていった。切る途中で、切る人を交代しながら進めていた。

《Dグループ》

1人が新聞紙をハサミで細く切り、他児がその切った新聞紙をねじり、ロープのようにして繋げていく姿が見られた。新聞紙で剣を作る際に、斜めに新聞紙を巻くと長くなるという経験をしていたからだろう。はじめは、3人がねじる係をしていたが、たくさんできると、そのうちの1人がセロハンテープで繋げていく係になり、時間ギリギリまで黙々と自分の役割を全うしていた。なぜ、新聞紙をねじることにしたのかを聞くと、上手く言葉で説明できなかったものの、「ねじったら長くなるか試したかった。」と話していた。

その後、クラス全員でねじった新聞紙とそのままの新聞紙ではどちらが長いのかを検証し、大きな新聞紙を斜めに巻いていくと長くなるが、細い新聞紙をねじるだけでは短くなってしまふことを確認した。

今回のゲームは新聞紙を切って、貼るといっても単純な作業だったため、それぞれの幼児が自信をもって取り組むことができた。今までの経験からどう切ればいいのか、どう繋げていけばいいのかいろいろな方法を考えていた。また、1学期からグループで活動したり、発表したりする際に、役割を決めることの大切さを実感していたので、自分たちでどんな役割があるのかを考

えて役割分担し、力を合わせて進める姿が見られた。意見がぶつかった際には、自分たちだけで解決することは難しいが、教員が仲介に入ってそれぞれの考えを聞き、言葉を補足することで、目的に合った方法を選び、進めることができた。Dグループのように今までの経験から斜めに巻くと長くなるということを知っていたが、試してみる中で、実際にねじるとどうなるのかを幼児と共に検証し、比べることで、紙の特性にも気付くことができた。

新聞紙ゲームの活動では、自分たちが知っている技術や方法、ものの特性などの知識を存分に発揮し、同じグループの友達に伝え、認め合ったり、協力し合ったりして進めることができ、主体的な活動となった。

幼児期は遊びの中で学ぶ「学びの芽生え」の時期である。自分自身の興味・関心に沿って遊びを展開し、その中で様々なことを経験し、学んでいく。遊びの中で興味・関心が変わり、遊びが少しずつ形を変えて展開することも多く見られる。実践事例のCグループのように楽しさの中で目的を見失うこともある。そうならないために、目的を教員が与えるのではなく、子ども自身が常に意識できるようにすることが小学校の学習においては必要となる。そうすることで「自覚的な学び」へとつなげていくことが重要であると考えられる。

小学校と幼稚園が互いの実践を交流する中で、それぞれの実際の姿や発達段階を理解した上で、接続期に求める姿を明らかにすることの重要性を実感した。特に幼児期に何を経験し、小学校教育の中でどのように発揮するのかを、幼小の教員が共有することが大切である。そこで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を基に、実際の子どもの姿を踏まえた実践園・校における期待される子どもの具体的な姿を幼小の教員が協議して明らかにしたいと考えた。

#### (4) 接続期の主体性・表現力を育むための「期待される接続期の姿」の分析

接続期の子どものアセスメントを行うために、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を基に、実践園・校の子どもの姿を踏まえ、期待される接続期の姿を具体的に示すこととし、互いに実践を交流した幼稚園・小学校の教員が意見を出し合い作成したものが以下である。幼稚園における卒園時の姿と、小学校の入学時の児童の姿を、幼稚園・小学校の教員がそれぞれイメージして「期待される接続期の姿」としてまとめている。

##### ○「期待される接続期の姿」

具体的な幼児、児童の姿については、それぞれ「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力（表3）として分けられるものではないが、関連が強いと考えられる資質・能力に合わせてカテゴリー分けを行ってみたものが表4である。

表3 期待される接続期の姿「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力

イ 豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」	ロ 気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」	ハ 心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」
---	---	---

表4 期待される接続期の具体的な姿

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」	具体的な幼児・児童の姿
<p>(1) 健康な心と体</p> <p>幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。</p>	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員や友達と触れ合い、安定感をもって行動している。</li> <li>・ いろいろな遊びの中で十分に体を動かしている。</li> <li>・ 健康な生活のリズムを身に付けている。</li> </ul> <p>-----</p> <p>ロ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でしている。</li> <li>・ 幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動している。</li> <li>・ 自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行っている。</li> <li>・ 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動している。</li> </ul> <p>-----</p> <p>ハ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進んで戸外で遊んでいる。</li> <li>・ 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組んでいる。</li> <li>・ 教員や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもっている。</li> </ul>
<p>(2) 自立心</p> <p>身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。</p>	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分でできることは自分でしている。</li> <li>・ 自分のしなければならないことを理解している。</li> </ul> <p>-----</p> <p>ロ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分で考え、自分で行動している。</li> <li>・ 難しいことを自分の力でできるように、工夫して取り組んでいる。</li> </ul> <p>-----</p> <p>ハ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもっている。</li> <li>・ 難しいことでも諦めず、やり遂げようと粘り強く取り組んでいる。</li> </ul>
<p>(3) 協同性</p> <p>友達と関わる中で、互いの思いや考え</p>	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員や友達と共に過ごすことの喜びを味わって</li> </ul>

<p>などを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。</p>	<p>いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達によさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わっている。</li> </ul> <p>-----</p> <p>ロ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と共通の目的をもち、実現に向けて考えたり、協力したりしている。</li> <li>・友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどしている。</li> </ul> <p>-----</p> <p>ハ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と積極的に関わって、一緒に活動を楽しもうとしている。</li> <li>・友達と一緒に活動を進める楽しさや充実感を味わっている。</li> </ul>
<p>(4) 道徳性・規範意識の芽生え</p> <p>友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。</p>	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付いている。</li> <li>・友達との関わりを深め、思いやりをもっている。</li> <li>・友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気づき、守ろうとしている。</li> </ul> <p>-----</p> <p>ロ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よいことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動している。</li> <li>・身の回りの問題に気づき、友達と折り合いを付けながら、決まりをつくったり、守ったりしようとしている。</li> </ul> <p>-----</p> <p>ハ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合っている。</li> <li>・共同の遊具や用具を大切にし、皆で使っている。</li> </ul>
<p>(5) 社会生活との関わり</p> <p>家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりす</p>	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しんでいる。</li> <li>・幼稚園内外の行事において国旗に親しんでいる。</li> </ul> <p>-----</p> <p>ロ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊んでいる。</li> <li>・身近な物を大切にしている。</li> </ul> <p>-----</p> <p>ハ</p>

<p>るなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもっている。</li> <li>・高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもっている。</li> </ul>
<p>(6) 思考力の芽生え</p> <p>身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。</p>	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどに気付いている。</li> <li>・友達の様々な考えに触れ、自分と異なる考えがあることに気付いている。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>ロ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊んでいる。</li> <li>・物の性質や仕組みなどに気づき、考えたり工夫したりして遊びや活動に生かそうとしている。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>ハ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもっている。</li> <li>・友達の考えを取り入れたり、新たに考えたりしながら、よりよい遊びや活動にしようとしている。</li> </ul>
<p>(7) 自然との関わり・生命尊重</p> <p>自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にす気持ちをもって関わるようになる。</p>	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付いている。</li> <li>・季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付いている。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>ロ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気づき、いたわったり、大切にしたりしている。</li> <li>・身近な自然に触れ、好奇心や探究心をもって考えたり、言葉などで表現したりしようとしている。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>ハ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然や動植物に愛情をもち、大切にしようとしている。</li> <li>・自然や生命の不思議さ、尊さに気づき、大切にす気持ちをもって関わろうとしている。</li> </ul>



<p>(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <p>遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。</p>	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中で数量や図形などに関心をもっている。</li> <li>・日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心もっている。</li> </ul> <p>-----</p> <p>ロ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数量や図形などに親しみ、必要に応じて物を数えたり、量を比べたり、様々な形を組み合わせて遊んだりしている。</li> <li>・標識や文字などに関心をもち、その役割に気付いたり使ってみたりしている。</li> </ul> <p>-----</p> <p>ハ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数量や図形などへの興味、関心を深めている。</li> <li>・標識や文字などへの興味、関心を深めている。</li> </ul>
<p>(9) 言葉による伝え合い</p> <p>教員や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。</p>	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりしている。</li> <li>・生活の中で必要な言葉が分かり、使っている。</li> <li>・生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付いている。</li> <li>・いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにしている。</li> </ul> <p>-----</p> <p>ロ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現している。</li> <li>・したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりしている。</li> <li>・人の話を注意して聞き、相手に分かるように話している。</li> </ul> <p>-----</p> <p>ハ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親しみをもって日常の挨拶をしている。</li> <li>・絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わっている。</li> <li>・日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わっている。</li> </ul>
<p>(10) 豊かな感性と表現</p> <p>心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の</p>	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しん</li> </ul>

<p>仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。</p>	<p>でいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わっている。</li> </ul> <hr/> <p>ロ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどしている。</li> <li>・いろいろな素材に親しみ、工夫して遊んでいる。</li> <li>・かいたり、つくったりする楽しさを、遊びに使ったり、飾ったりなどしている。</li> <li>・自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わっている。</li> </ul> <hr/> <p>ハ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにしている。</li> <li>・様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わっている。</li> </ul>
--	---

## 7 成果と課題

2年間継続して子どもの姿を追跡することにより、接続期に存在する段差の在り様の一端を示すことができた。幼稚園から小学校への就学において、施設等の物的環境、友達や教員などの人的環境の変化は当然段差となり得る。しかし、それに伴う学びのスタイルの変化、すなわち遊びの中での「学びの芽生え」から「自覚的な学び」への移行や、人的変化に伴う人間関係の再構築に関わる段差によるパフォーマンスの低下がむしろ大きいのではないか。この段差によるパフォーマンスの低下は、子どもによって差が大きいものなのか、幼小の教員の意識の差によって大きく低下するものなのかなど、更に分析を進める必要がある。

当然ながら、子どもの実態は毎年同じではない。しかし、参考とする姿があることで、共有が容易になり、目の前の子どもについて具体的な姿をもって交流することが可能になる。「期待する接続期の姿」を規準として、幼小それぞれの教員がその時点での子どもの状況を見取り、指導の方向、方策を見立てるアセスメントを行うことは、接続期の教育の中にある教員の指導・援助の違いによって生じる、子どもの戸惑いを軽減することに役立つと考えられる。また、援助や指導の方向性を幼稚園と小学校の教員が共有することで、環境や教員が代わっても、子どもが安心して自己発揮することができると考えられる。

2年間の研究を進める中、幼稚園及び小学校における教育方法及び教員の指導・援助の意識の違いがあることが分かった。その違いを知るためには、互いの教育を知る機会を意識的にもつことが有効である。しかし、実際にはそのような時間を確保することは難しい。就学前教育施設においては、「自発的な活動」としての遊びの意義を保護者や小学校に発信することが求められる。小学校においては、「自発的な活動」を通して育まれてきたものを十分に理解し、「自覚的な学び」ができるように指導の工夫や指導計画の作成を行うことが求められる。

そのために、今後一層交流活動、教員の合同研修や情報共有を通して、幼児期までにどのような経験をしてきたのか、どのようなことに興味・関心をもっているのかなどを含めた子ども理解を教育施設を超えて共有することが必要である。そして、子どもの発達段階に応じた目標の設定や経験や身近な環境を生かした指導の工夫につなげていくことが重要である。

#### **参考・引用文献**

- (1) 文部科学省（2017）『小学校学習指導要領』
- (2) 文部科学省（2017）『幼稚園教育要領』
- (3) 内閣府（2017）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
- (4) 厚生労働省（2017）『保育所保育指針』
- (5) 国立教育政策研究所（2017）「幼小接続期の育ち・学びと幼児教育の質に関する研究」〈報告書〉
- (6) 内田伸子、津金美智子（2014）「乳幼児期の論理的思考の発達に関する研究—自発的活動としての遊びを通して論理的思考力が育まれる—」『保育科学研究』第5巻